



足見川の里山を守る会

活動紹介

■活動場所

足見川周辺地域の里山及び内部・四郷（風致）地区

■活動頻度

年間6回程度。活動室での例会及び足見川周辺での里山野外学習を行う。
2021年度はコロナ禍の下、活動が十分にできておりません。

■活動内容

2021年 コロナ禍の影響の下、各自会員の自主活動に任せて足見川周辺の里山野外学習にいそしみ、特に春先東南アジアから飛来し、夏にかけてヒナを孵して子育てをする絶滅危惧種の渡り鳥サシバの営巣を見守り、その保護に取り組んだ。丁度足見川メガソーラー工事期間の真最中にて心配したが、9月には無事に飛び立っていきました。
気がかりな事は、2022年以降足見川周辺地域にて、続々とソーラー発電事業が稼働する中で里山が開発されて、サシバが営巣しなくなることです。

代表者の想い

今や持続可能な社会を求める上で、エネルギー問題は避けることができません。
しかしながら、現在進行中の地球温暖化の下で、自然再生エネルギーへの転換（温室効果ガスの削減目標）が声高に叫ばれて、その推進の名の下に森林を伐採し里山を顧みない単に利潤追求の為の環境破壊（大規模太陽光発電・メガソーラー）は許されません。一人一人に真のエネルギーの在り方と里山保全が問われている。

〈ソーラーパネルの遠景〉



〈2021年7月のサシバ〉



〈足見川メガソーラーのパネル〉

